

第97話 民家の火災

中山町歴史散策

円同寺が焼失した享保12年(1727)4月、長崎村の上町・中町を残らず焼失する大きな火災がありました。上町の村山欣一家文書によると「上町の裏より出火」とあることから、恐らく現在の町役場南より八坂神社一帯が焼失したと考えられます。この上町・中町の火災の翌年(1728)には、現町役場向いにある寒河江代官所出張所長崎陣屋が、村方の火災で類焼しました。

その後、長崎陣屋は、ここより北に移り、現在の天性寺山門への通路東側に移築されました。

当時は、現在の主要地方道天童寒河江線の道路はなく、町役場前の道路は天性寺門前から西に折れていました。長崎陣屋は、10年後の元文3年(1738)に柳町より出火した火災で再び類焼し、それ以降は空屋敷になりました。

長崎村は、建屋が次第に混み合うようになって、文政4年(1821)5月2日昼四ツ時(午前10時頃)にも上町で火災があつて、秋葉弥右衛門家に「類焼見舞申受帳」があることから2、3軒を焼いた火災であつたと考えられます。

もう一つの記録は、幕末の慶応2年(1866)正月に土橋村で火災がありました。当時の火災報告書には、火災の状況、失火者の対応、近隣の人びとの処置、藩役人、村役人の動きなどが詳細に記録されています。

既に、火災報告書の書式が定められていたものと見えて、表題には事故の顛末を書いて藩役人に提出するよう命ぜられていたことから「請書」の形で記載されています。

【用語の説明】  
陣屋・代官などの支配地における役宅のこと。

※参考 中山町史 中巻  
第9章第3節 火災と防災対策

フレッシュ通信 Vol.16

だいき 松田 大樹さん (20歳)



- 趣味 スキューバダイビング。昨年は酒田の海中心でしたが、今年は時間を見つけて色々な海に潜ってみたいです。
- 好きな食べ物 甘いもの。特にケーキが大好きです。
- 尊敬する人 両親
- 中山町の魅力は？ 隣の市から通勤していますが、私の住んでいるところに比べ、閑静で住みやすそうだなと思います。工作中、窓から見えるのどかな風景にいつも癒されています。

今回は、私たちの生活に欠かせないライフラインである「水道」の維持に取り組んでいる松田大樹さんにお話を聞きました。

お仕事について教えてください

最上川中部水道企業団で働いています。所属は工務課の浄水場係で、皆さんにお届けする「水道水」を作っています。

水道水はどのように作られるのですか？

最上川中部水道企業団では、最上川から取水し、沈殿やろ過、消毒などの浄水処理を行い、水道水にしています。毎日の塩素濃度測定などのほか、定期的な水質検査も実施されており、ですので、安心して使っていただくことができます。

この仕事に就いたきっかけは？

水は、飲み水や入浴、洗濯など私たちの生活に密着しており、生活していく上で欠かすことができないライフラインだと思います。

「蛇口をひねれば水が出る」という当たり前を維持し、人々が安心安全な生活を送れるよう、水を通して人々の

役に立ちたいと思い、この仕事を志望しました。

印象に残っているできごとは？

一昨年7月の大雨です。川の氾濫により、水道水のもととなる最上川の水がひどく濁ってしまいました。

村山広域水道からの受水が停止し、1週間もの間、水道水なしの生活を強いられた地域もあったようですが、最上川中部水道企業団では、全職員で昼夜を問わず浄水作業を行い、各家庭に水を送り続け、断水を回避することができました。

当時、私は入ったばかりで、先輩方の指示に従って手伝うことしかできませんでした。断水を回避できたときは、最上川中部水道企業団の一員として誇りとやりがいを感じました。

今後の目標や課題を教えてください

4月から社会人3年目になります。今後、どんどん先輩が入ってくると思うので、指導される側から指導する側にならないかならぬと思っています。先輩方を見習い、自分の担当以外のことであったりも機会があれば線引きをせずに勉強し、様々な事態に対応できる頼れる先輩になりたいと思います。

なかやまタイムスリップ Vol.23

今から43年前... 1972 (昭和47年)

かもしかクラブ結成



カモシカクラブ

町内に初めて誕生... 結成のきっかけは、近年、町内では幼児の交通事故はほとんどなくなりましたが、かもしかクラブでは現在も会員を募集中です(詳しくは町ホームページをご覧ください)。



案内人 すもものしずくちゃん すもものしずくちゃんの詳細はフェイスブックで



http://www.town.nakayama.yamagata.jp/gyosei/bosai/kamosika\_club.html